

日本水産学会漁業懇話会において 京都府定置網漁業の取組を報告

3 月 26 日に東京海洋大学で日本水産学会漁業懇話会「沿岸漁業の季節変動に対応する漁業技術とは？」が開催され、72 名の水産関係研究者等が参集しました。本懇話会は、漁業研究のトレンドや漁業現場で起こっている様々な問題、先駆的取組などについて情報交換し、研究の発展と漁業振興に資するものです。

当センターからは、「京都府における定置網漁業の工夫」と題して、季節によって変わる様々な漁獲対象種に対し、漁業者が技術を駆使してこれらを漁獲し、鮮度を保ち付加価値を上げる努力を行い、漁業経営を安定させていることを報告しました。

また、本懇話会では、魚群探知機を使って漁業者自らが海底地形図を作成し操業に役立てている例や、I ターンでサラリーマンから転職した漁業者の話など、多くの有益な情報を得ることができました。

今後も、このような機会を積極的に活用して全国の情報や最新の知見を収集し、漁業者をはじめ府民に役立つ研究を進めます。



発表スライド